

「日本の賃金－歴史と展望－」調査報告書

日本の賃金の歴史と展望に関する研究委員会（所内プロジェクト）

座長	龍井 葉二	連合総研副所長
委員	須田 孝	連合
	伊藤 彰英	基幹労連
	萩原 文隆	電機連合
	石井 繁雄	情報労連
	前田 篤志	J E C連合
	西尾 多聞	U I ゼンセン同盟
	井田 和子	私鉄総連
	木住野 徹	J A M
	八幡ちひろ	自治労
アドバイザー：	金子良事(法政大学客員研究員)	
	加藤昇(電機連合OB)	
	石塚拓郎(基幹労連)	

戦後の歴史のなかで日本の賃金制度は揺れ動いてきた。2000年代に入ってから成果主義賃金の導入、そしてここ数年の見直しという動きのなかで、今なお方向が定まったとはいえない状況が続いている。こうした動向を正確に捉えるためには、長い歴史的な経過から教訓を得るとともに、いま動いている制度の現状についても相互比較を行う必要がある。

連合総研では、賃金の歴史的な検証を行いながら、今後の方向を探るための委員会を設置した。具体的には、各産別構成組織の賃金担当者（経験者を含む）による意見交換をおこなうとともに、各界の有識者からヒアリングなどを行った。報告書では、日本の賃金の歴史に焦点を当てた総論と産業別組合の賃金方針の推移および有識者の講演録を収録している。

目次

総論

- 第1部 日本の賃金の歴史
 - 第1章 賃金とは何か
 - 第2章 年功賃金はいつ頃生まれ、どのように変化してきたのか。
 - 第3章 手当、一時金(賞与、退職金の歴史と現状)
 - 第4章 賃金はどのようにして決まるのか。
- 第2部 賃金分析の方法と要求の作り方
 - 第1章 私の賃金は高いのか、安いのか(賃金構造について)
 - 第2章 賃金要求の作り方
 - 第3章 日本ではなぜ過労死等が生まれ、長時間労働になるのだろうか。
- 第3部 今後の展望
 - 第1章 賃金の社会性
 - 第2章 企業経営と賃金に関する考え方

産業別組合の賃金に関する取り組みの歴史（7つの産業別労働組合の歴史）

講演録 榎本 純氏、成瀬 健生氏、孫田 良平氏、熊沢 誠氏